

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所)、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームひだまりの家	評価実施年月日	平成21年8月7日
評価実施構成員氏名	澤又・奥村・谷本・若月・泉田・青野・高田・千葉・畠山・中道・清水・小川・廣田		
記録者氏名	澤又 幸雄	記録年月日	平成20年8月9日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ふれあい」…不安な高齢者の傍らで優しく手を添えられる距離での援助 「支えあい」…入居者家族の心の支え 「思いあい」…思いやりのあるところ 「語りあい」…認知症についての理解を地域住民と語りあい 「広げあい」…地域住民に開放しグループホームの取り組みを地域に広げる	・5つの「あい」を理念に掲げる他、職員ミーティングで再確認している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・理念、5つの「あい」を玄関入り口に掲示、職員、家族、地域住民にも理解頂けるようにしている。	・常に意識できるよう、理念を職員休憩室に大書し掲示している。 ・常に振り返ることができるよう職員休憩室に理念を大書し掲示する。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	・加入町内会の集まりの際や運営推進会議開催時に、ひだまりの家の「理念」と「9人の認知症高齢者が暮らしている」ことを説明、一定の理解を頂いている。	・町内会に加入、活動への参加協力。 ・GHに気軽に立ち寄ることが出来るよう、手造り看板を設置し理念の“ハート”と「お立ち寄り下さい」の文言で呼びかけている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	・ミーティング等の機会を捉え近隣住民と気軽に挨拶を行うよう指導。 ・散歩など入居者との外出時に“声掛け・挨拶”を実践している。 ・町内の独居老人との挨拶から、相互に訪問する交流が生まれている。	・独居老人との交流、相互訪問を拡げたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・パークゴルフ大会や懇親会等への参加、町内外からの施設見学を受け入れている。 ・地域幼稚園での運動会や学芸会行事への参加見学、入居者誕生会への招待など相互交流ふれあいを実施。	・事業所主催の“ひだまり交流会”に、加入町内会住民のほか地域住民の参加を呼びかけ、グループホームと認知症の理解を深めたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・項目9に関連、「独居高齢者の安否確認」(町内の独居老人との挨拶から相互に訪問する交流が生まれている。) ・花壇の整備で地域の美化活動に協力、併せて看板を設置、施設見学に関わらず気軽に立ち寄って頂けるよう呼びかけている。	・親しみやすいよう手作りの看板を設置、地域住民の方が気軽に立ち寄ることが出来るよう取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>・外部評価を積極的に受けることにより、自分たちの実践していることを客観的にまた、冷静に見ることが出来、改善に繋がっている。</p> <p>・毎回、外部評価結果を職員ミーティングで報告、改善に取り組む。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>・「運営推進会議」を入居者誕生会やひだまり交流会に合わせて開催。</p> <p>・構成員への趣旨説明とグループホームの現況報告と出席者からの意見をいただきサービス向上に繋げるよう取り組んでいる。</p> <p>・運営推進会議に外部から、知見を有する社会福祉士並びに介護支援専門員や地域に居住する医師の参画を図りたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>・行政職員の運営推進会議への出席は無いが、事故報告やヒヤリハットなどのほか、懸案事項発生時には積極的に連絡、相談を行っている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>・認知症高齢者や知的障害者、精神障害者などの意思決定能力の不十分な方に対し、意思表示の援助や代弁など日常の地域生活を総合的に支援する事業としての押さえはあるが、地域権利擁護事業そのものが十分に機能しておらず、(迅速な対応が出来ない、高額な利用料や支援員の不足など)実際の活用には二の足を踏みたくなる現状から制度の話をするだけで終わることが多い。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>・身体拘束廃止委員会の設置。</p> <p>・ミーティングで、身体拘束(高齢者虐待)について取り上げ、共通認識の元で取り組めるよう行っている。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>・入退居時は施設長がこれにあたり、契約書や重要事項説明書各項目ごとに説明、理解を得られていることと思う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・入居者からの意見、苦情、悩み、不満など、日常的に行われているミーティングその他で吸い上げ、管理者から職員・家族に伝え協議の場を設け運営に反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	・項目13に関連、都度の連絡報告の他、小口現金出納状況や日々の暮らしぶりが伺える「一行日記」を毎月ご家族に郵送報告している。 ・写真を多用した“表情の見える”「情報紙」を年に数回発行、ご家族に郵送している。		・「一日一行日記」の他、四半期毎に「ひだまり通信」を発行、表情の見える形で情報発信を行っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	項目13・14以外に、直接や電話でのご家族からの要望・意見・苦情があれば、都度施設長や職員を交えた協議を行い、ご家族の意見を反映させる場を設け対応している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・職員からの意見、苦情、悩み、不満など、日常的に行われているミーティングその他で吸い上げ、管理者から施設長に伝え協議の場を設け運営に反映させている。 ・施設長による、個別面談の実施。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	・職員の都合によるのではなく利用者や家族状況(行事や入居者の動向)に合わせ必要な時間帯に職員を配置できるよう調整。結果、十分な休暇が取れない現状がある。		・必要時、休暇が取れる体制。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	・職員が代わる場合は最低でも半月程度は同行を行い、入居者個別のニーズや状況の引き継ぎを行って頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>・入社当初は、経験ある職員との同行研修、経験後は加入のグループホーム協議会や研究会開催の研修などへの参加を行っている。</p>	<p>・出来るだけ、外部研修への参加機会を設けたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>・入居者との関わりやレクリエーションの持ち方などで、他グループホーム見学交流の提案段階であり、未実施項目。</p>	<p>・他グループホーム見学交流</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>・職員ストレス軽減に向けては、適正な休日と勤務時間中における休憩、休息時間の確保ができるよう配慮する。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>・施設長による個別面談の実施。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>・入居相談においては、相談者の都合や時間に合わせた対応を行い、訪問や来所など任意の形で相談しやすい場の設定と十分な傾聴を行うことを心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>・項目24を行うことにより、一定の信頼関係構築がなされているものと思われる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・相談内容が、入居希望であれば自施設のみならず他施設情報の提供を行う。 ・その他の福祉サービス相談であれば適切なサービスへ繋がるようアドバイスを行い、包括支援センターとも連絡を取り合い、状況に応じた対応が出来るよう配慮している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	・入居希望時ご家族のみではなく、ご本人による見学、面談を実施。 ・施設内の見学や「おやつ」や「食事」をとって貰い乍ら、少しでも馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	・共にお茶を飲み、ゲームや裁縫、塗り絵や合唱等を一緒に行いながら過ごしている。 ・誕生会や行事では同じものを食べる等、共有する時間を大切にしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	・来訪時、家族に日々の変化を報告し、希望・要望を聞きながら相談、介護計画に反映させている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	・都度の連絡報告の他、毎日の「一行日記」の中で日々の暮らしぶりをご家族にお伝えしている。来所の少ない家族には、入居者に代わり電話の取り次ぎで声を聞かせる。葉書や手紙を書いて頂き、ご家族に郵送している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	・遠いところの友人であれば、手紙や電話を取り次ぐなどの支援を行う。 ・市内であれば、ドライブの途中で顔を見せる等の工夫を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・孤立や関係性が悪化しないよう、毎日のレクリエーションに出来るだけ参加頂き、心を配った取り組みを行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	・契約終了時には、今後の方向性を確認、他サービスに繋げる取り組みを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入居者本人から把握できない場合は、ご家族から得る様にしている。 ・センター方式を活用、本人の願いや希望を把握できるよう取り組んでいる。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居者本人から把握できない場合は、ご家族から得る様にしている。 ・センター方式を活用、把握できるよう取り組んでいる。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・職員は業務開始前に必ず入居者各人に挨拶を行い、顔貌や言葉からその日の状況や状態把握が出来るよう努めている。 ・関わった職員が介護記録を行い一日の状態把握が図れるよう取り組んでいる。 ・深く把握できるよう入居者担当を決め取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・センター方式の導入と担当制で、よりよく関わられるよう取り組んでいる。		・入居者担当制の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・期間毎の見直しを行い、家族意見を反映させられるよう説明うえ介護計画作成を行っている。 ・当初の介護計画にない内容や問題発生時には家族と連絡を取り合い対応している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・項目35に関連、関わった職員が介護記録を残す事を行っており、職員各自が介護記録から一日の状態把握が図れるよう取り組み、情報の共有、実践などに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・現状、入居のみのグループホーム。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・認知症の方の入居施設という点を理解頂けるよう説明、関係する行政機関、民生委員、ボランティア(芸能・園芸・マッサージ)の方との協力をいただきながら運営している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・グループホームにおいて、他サービスの利用は難しいが、項目40にあるように介護保険制度以外のサービス利用に積極的に取り組んでいる。		・嚥下状態の改善に歯科衛生士による口腔ケアを導入する。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	・担当地区の地域包括支援センターのみならず、内容に応じ全域の支援センターに相談指導をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・内科医往診を月2回、医療連携による看護師の訪問を週1回実施。不定期に歯科往診。 ・24時間365日の医療連携体制を構築、健康管理・相談などを日常的に行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	・協力医療機関として、認知症の専門医である神経科医師にお願いしており、必要時の相談などが出来る体制を取っている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・項目43に関連、入院施設のある医療機関看護師による医療連携体制をとっており、24時間365日の支援体制がとられている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	・項目43、45に関連、利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	・項目43、45に関連、日常的に病状などの把握、相談体制が出来ており、家族やかかりつけ医等と話し合いを行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	・項目43、45、47に関連、日常的に病状などの把握、事業所としての関わりの見極めを行い、今後の変化に備えて都度の検討や準備を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	・リロケーションダメージについては、家族並びに関係者からの情報を元に慎重に対応、状況により“環境に慣れられるまで”入居者とともに家族に過ごして頂くことを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	・朝の申し送り時には、入居者個人名を出さないよう徹底、居室番号で行うようにしているほか、居室への出入りの際は「必ず」声掛けを行い了解いただくように配慮している。(個人の呼称は、馴染みの関係ができた方は、親しみを込めて「名前」で呼ぶ方もいる。)		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・項目50に関連、居室の出入りに際しての説明と同意のように、全てに於いて配慮している項目。 ・各人の趣味や嗜好で「食べたい物」、「飲みたい物」などを具体的列挙し「おはぎ」や「まんじゅう」、「ビール」などを準備し召し上がって頂いている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・項目50に関連し、具体的に提示する中で「レクリエーション」や「散歩」、「仕事(縫製)」など出来るだけ希望を確認、状態や体調に合わせた支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・積極的に外出しての理美容利用は難しく、主に訪問理美容を利用している状況。 ・従来からの理美容利用を妨げるものではなく、家族対応でお願いしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	・調理内容によっては、野菜の皮むきや刻みを行って頂く場合もあるが、主にテーブル拭きを行って頂いています。 ・焼き肉やお好み焼き等、目の前で温かい物を召し上がって頂けるよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	・項目50に関連、各人の趣味や嗜好については「食べたい物」、「飲みたい物」などを具体的に聞きながら、「おはぎ」や「まんじゅう」、「ビール」などを準備し召し上がって頂いている。現在の処、喫煙者はいない。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・個人の状況に合わせ、経時的に排泄誘導を行い、排泄の失敗が無いように取り組んでいます。 ・排便間隔を把握し、便秘による苦痛がないよう取り組んでいる。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・現状、週2回、午後からの時間帯での入浴としておりますが、排泄の状況も見ながら適時シャワー浴なども行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・生活リズムはまちまち「早く休まれる方がいる場合」リビングのテレビ音量や職員の足音が響かないように配慮。 ・居室で休まれることが多い方には、より多く声掛けを行い体調把握を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・体調や精神状態に配慮しながら、毎日のレクリエーションに出来るだけ参加頂いているほか、誕生会や外出しての食事会、ドライブと気分転換ができるよう配慮している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現状、全ての方が金銭管理は難しく、「家族との話し合い」のもと、その使用状況に応じた金銭(万一、紛失しても困らない程度、数千円の金額)を持って頂き、「孫への小遣い」などに使用して頂いています。日用品の買い物には、「個人預かり金」から準備し、嗜好品などの購入にあてている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・職員配置を見ながらにはなりますが、体調や精神状態に配慮しながら、散歩や外気浴など促している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	・センター方式の導入と担当制で、個別希望や思いが捉えられるよう取り組んでいる。		・個別の嗜好が満たされるよう、入居者外出支援を行う ・家族の協力を得ながら、動物園や果樹園も計画したい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・頻回にくることが出来ない家族の元には、本人に確認しながら電話で「本人の声」を聞いて貰えるよう取り次いでいる。 ・「写真入り葉書」や「写真入り手紙」を送れるよう支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	・「家族」、「友人」の訪問時は、ゆっくり寛いで頂けるよう、多目的室を解放し自由に利用頂いております。 ・入居前に、参加していた「老人倶楽部」会員の来所やのほか、項目63に関連し、「葉書」や「手紙」を送れるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・ミーティングの中で、具体的な行為を示し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。 (行政から送付される事例集などの資料活用)		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者居室の立ち入りの際は必ず声掛けするなど配慮している。 ・職員が一カ所に固まることなく、入居者状況の把握が出来るよう、安全に配慮している。 ・帰宅願望強い方の動静は、“15分毎”経過表で把握し、事故防止に取り組んでいる。 		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状況に合わせて行っており、「針」や「はさみ」、「包丁」などの道具も使用頂いています。 ・特に無くし易い“針”使用時は、必ず職員と一緒にするなど安全に配慮している。 		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・有資格者は介護員としての基礎知識の他、順次“救命講習”受講いただいている。 ・無資格者2名については採用時、施設長からの説明注意を受け業務を行っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・レベルアップに事業所全体として救命講習を行う。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・項目69に同じ。 		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の火災・通報・避難訓練を行うほか、町内会に加入、協力が得られるよう御願っている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・火災・通報・避難訓練に町内会の協力が得られるよう図りたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時状況から、考えられる一定のリスクは説明、検討している。 ・入居以降の状態が発生するリスクが考えられる場合、都度家族交え協議している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・専任の調理担当者を配しての調理。 ・新鮮な食材利用と布巾やまな板の除菌と衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・園芸ボランティアの協力をいただきながら、建物周囲環境整備を図っている。 ・建物周囲には花壇や植樹を行い、近隣住民が立ち寄りやすい環境を整備している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・季節に合わせた花などの植物や飾り物で工夫している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・入居者以上の椅子を配置し個になれる場所を設置している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居前に使用していた机やソファ、タンス、仏壇などを配置頂くなど工夫している。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・各室内に温度・湿度計を設置し職員が定期的に確認し室温他の環境面に配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・業務開始前、入居者に必ず声掛けを行い顔色、健康面など一人ひとりの様子の把握に努めている。
- ・掃除、安全面、衛生面に配慮し、館内消毒や食前の手洗いや手拭きを必ず行っている。
- ・運動機能の低下防止を考え、毎日のラジオ体操や館内散歩を継続している。
- ・生活に楽しみが持てるよう毎日、日替わりで活動性を高めるレクを考え参加頂いている。
- ・入居者の一日の流れを「一行日記」にまとめ、毎月家族に送付し暮らしぶりをお伝えしている。
- ・笑い声が聞こえる会話を心がけ、些細な事でも手伝って頂いた事には感謝の言葉(有り難う・助かりました)を忘れずに伝えている。
- ・入居者が声を出して笑える回数を増やすように取り組んでいる。
- ・楽しくイキイキと過ごされますように笑顔で接し言葉掛けに気を付けています。
- ・調理をしながら会話、食べやすさ、好みなども考慮した盛り付けや味を工夫、少しでも食欲が出るよう心がけている。
- ・楽しく元気に生活できるよう、レクリエーション等に力を入れている。
- ・誕生会のほか、外食や花見、焼き肉パーティ、カラオケと行事の工夫をしている。
- ・入居者の職と安全の確保に、衛生面・鮮度・味付けに配慮して取り組んでいる。